

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 1 号 平成 2 5 年 7 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

平成 2 5 年度福島県農地保有合理化事業推進会議が開催されました

平成 2 5 年 6 月 2 4 日 (月) 郡山市の福島県農業総合センター「多目的ホール」において、当公社の主催により、福島県、市町村、市町村農業委員会、農地利用集積円滑化団体等、約 1 2 5 名の関係者が一堂に会して、「平成 2 5 年度福島県農地保有合理化事業推進会議」を開催いたしました。



この会議は、農地保有合理化事業の内容や事業推進上の留意点等について、関係機関等の担当者の理解を深め、県内の農地集積の促進を図ることを目的に毎年開催しております。

会議に先立ち、当公社の松浦理事長、農地保有合理化事業の主管課である福島県農業担い手課の安田副課長よりあいさつがありました。

その後会議に移り、

- (1) 農地保有合理化事業の推進について
- (2) 「担い手への農地集積推進事業」と農地保有合理化事業の関係について

- (3) 農地保有合理化事業の内容と留意点等について

当社より説明をしました。

また、

- (4) 「農地の中間的受け皿(県農地中間管理機構(仮称))」について

農林水産省東北農政局経営・事業支援部農地政策推進課の小林係長より、当該政策の検討に至った経過や政策の概要等について説明がありました。このことについては、新聞報道などでも大きく取り上げられていることなどから、出席者の関心も高く、機構の組織、農地利用集積円滑化団



体との関係、機構の業務委託、耕作放棄地の取り組み等に対するの質疑応答や活発な意見交換などが行われ、関係出席者相互の理解を深めることができました。

農地調整課

平成24年度の事業実績

平成24年度の農地保有合理化事業の実績は次のとおりです。

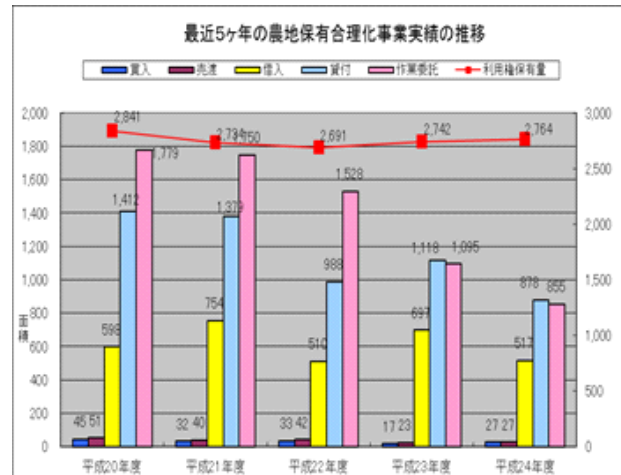
買入	27	㍊
売渡	27	㍊
借入	517	㍊
貸付	878	㍊
農作業受委託	855	㍊
利用権保有量	2,764	㍊

平成24年度の実績は依然として震災や原子力災害の影響が続いており、景気の低迷と相まって農地売買の需要は回復基調に至っておりません。

また、賃貸借事業及び農作業受委託事業については、基盤整備事業と併せ行う利用調整を積極的に推進し、地域の話し合いに基づく面的にまとめた農地利用の集積を進めた結果、震災や原子力災害の影響はあったものの、ほぼ計画とおりの実績を上げることができました。

地域ぐるみの利用調整の支援地区は平成24年度末で24市町村、94地区となっております。

しかしながら、公社が支援する農地の3分の1が被災した中、24年度に耕作が再開できた地域は一部に限られ、その大部分は耕作が困難な状況が続いております。



ふくしまの恵み安全対策協議会

平成25年産米の放射性物質 全量全袋検査について

平成25年産米についても、福島県産米の一層の信頼回復と安全・安心の確保のため、全量全袋検査を実施いたしますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

1 検査の対象

昨年同様に、県内全ての地域を対象に検査を行います。

出荷販売する米だけではなく、飯米、縁故米、食用となる「ふるい下米」など、全ての米が検査対象です。

2 検査の方法

(1) バーコードラベルについて

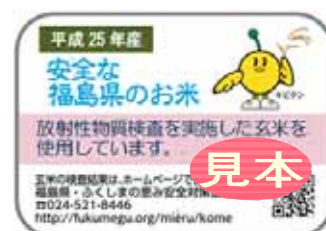
平成25年産米の検査では、新たなバーコードラベルを使用します。昨年配付したバーコードラベルは使用できませんのでご注意ください。

さい。
(2) 検査済証と精米用ラベルについて

全量全袋検査

検査を行い、基準値以下である米袋には、検査済証が貼られます。

消費者の皆さまが安心して県産米を購入できるよう検査済玄米を使用したことが分かる精米用ラベルを貼付する取組も進めます。



育成センター

全国農業青年クラブ連絡協議会

「中国・四国ブロック」との交流会について

去る5月31日(金)の朝、「中国・四国ブロック」の役員6名が、東日本大震災及び原発事故の支援金を寄付するため遠路、本県を訪れました。

道の駅ふくしま東和・あぶくま館で行われた贈呈式では、代表の森安理事から「3月に開いた九州・沖縄ブロックとの共同の東北復興祈願チャリティー直売会の収益による支援金をお渡しに来ました。福島の農業の現状を学び、ブロック集会等で正しく伝えたい。」とあいさつがありました。

これに対し、当県連の折笠会長が「皆さんの温かいご支援とご配慮に感謝します。1日楽しく交流しましょう!」と、お礼の言葉を述べました。



折笠会長に支援金を贈る森安理事(右から4人目)

式終了後、3月に『きぼうのたねカンパニー(株)』を設立した、D”ATCHの菅野瑞穂さんが「種をまくことは、命をつなぐこと」と題して事例報告を行いました。その内容は、大学等の協力を得て土壌検査や放射能検査を行い、安全・安心な農産物だけを販売していること、農業体験ツアーを企画して消費者の理解を得ていることなど、パワーポイントを使って紹介しました。

昼食は、D”ATCH会長の武藤洋平さんがシェフを務める農家レストラン「季の子工房」で本格的なイタリアンを味わいました。昼食後、飯舘村経由で浜通りの被災地に向かい、車窓に広がる南相馬市S地区の荒涼とした水田に、一行は言葉を失いました。次に、相馬市I地区で下車し、大津波の犠牲者に対し、全員で黙祷を捧げました。

伊達市で行われた親睦会では、「メッセージ入りギター」も贈呈され、友情と絆を深めるとともに、

今秋の四国での再会を約束して閉会しました。

平成24年度の青年就農給付金事業

(準備型)の給付実績について

福島県の準備型の給付実績は、21名でした。内訳の主なものは、次のとおりです。

研修先

農業総合センター農業短期大学校5名
農業総合センター果樹研究所1名
先進農家等15名(県外2名含む)

研修者年齢は、

～20歳未満 4名
20歳以上～30歳未満 7名
30歳以上～40歳未満 9名
40歳以上～45歳未満 1名

就農5年後の経営内容は、

水稲2名、野菜(トマト、カリ、ナス等)12名、
果樹(リンゴ)1名、花き(シクラメン等)2名
農業法人への就農4名

就農予定地

福島市2名、郡山市1名、田村市1名、石川町1名、西郷村1名、泉崎村1名、会津若松市1名、会津美里町2名、南会津町8名、下郷町1名、南相馬市1名、県外1名

なお、東北農政局公表による東北6県の給付実績は、次の表のとおりです。

(単位:人)

	準備型	経営開始型	計
青森県	56	237	293
岩手県	42	129	171
宮城県	12	28	40
秋田県	19	111	130
山形県	80	191	271
福島県	21	77	98
計	230	773	1003

公社事業を活用して規模拡大

喜多方市 新田球一さん



今まで両親がやってきた経営を平成15年から引き継ぐことになり、今までは手伝いくらいの気持ちで携わっておりましたが、やるからには二足の草鞋は履けないと思い農地を増やすことを考えました。

そんな時、農地の情報があり早速行政に相談したところ、福島県農業振興公社の農地保有合理化事業を活用した売買事業があるとの説明を受け、農地を取得し耕地面積を増やすことができました。

しかし、農業機械は父の代からの骨董物に頼っておりましたが、なんとも作業効率が悪く時間ばかりかかってしまい、農業後継者が定着しにくいことがよくわかりました。

こんなおり、平成17年に公社から農地を取得し、併せての農業用機械リース事業を活用して大型機械（6条刈コンバイン）を導入することができました。

農業を始めて日が浅い者には、金融機関は貸し渋り、資金繰りに苦慮していましたが、公社事業の分割払型の活用による農地取得や農業機械のリース

事業により、作業効率は上がり、受託面積も楽にこなすことができ、何よりも適期に刈り取ることができることや、機械が軽量でほ場を傷めないことが委託者や家族に喜んでもらえたことに併せて、稼働時間の短縮により体と気持ちに余裕もできました。

今では、経営を引き継いで10年が経過しその間約10倍の面積をこなしており、コシヒカリ米は特別栽培により栽培しており、収量はやや少ないものの美味しい米を作っております。

出来るだけ自分で販売しようと努力し、順調に客足が伸びていた矢先の原発事故でしたが、それでも努力の甲斐あって少しずつ顧客を取り戻しております。

私は現在54歳でまだまだこれからです。TPPの問題等、農業経営にはさらなる困難が待ち受けておりますが、立ち向かえるよう足腰を強くしていきたいと思っております。

こうしたことから農業の利益率は非常に少ないため、やる気のある農業人に補助付きのリース事業等の支援の手を期待しております。



編集後記 良寛さんの言葉の自戒

最近読んだ本の中に、良寛さんの言葉の使い方に対する「自戒」を見つけました。その中から少し写してみたのが下記のものです。

- 一、問わず語り。 一、さしでぐち。 一、人の物を言い切らぬうちに物を言う。 一、良く心得ぬことを人に教える。
- 一、都言葉などおぼえ、したり顔に言う。 一、学者くさき話。
- 一、風雅くさき話。

良寛さんの言葉の自戒には、このほか78通りもあるそ

うです。私も言葉の使い方を十分気をつけなければと目の覚めた思いの今日この頃です。 J.K

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>